

PCT、マドリッド、ハーグの各制度は、それぞれ特許、商標、意匠を海外で取得する際の有効なツールです。これら制度を活用して知財活動の充実を図っている企業にWIPO日本事務所がお話を伺います。

今回ご紹介するのは、2022年ハーグ国際意匠登録の出願人ランキングで、国内第1位となった株式会社ビックウエストのハーグ制度活用事例です。同社はロボットアニメーションの先駆けである「超時空要塞マクロス」シリーズの製作を手掛け、著作権管理業務を行う企業です。アニメーション業界が取り扱うバーチャルな対象を、日本の意匠制度で保護することは困難に思えますが、同社は発想の転換により大きな活用法を見いだしました。

企業名：株式会社ビックウエスト

(Bigwest Co., Ltd.)

本社所在地：東京都千代田区外神田

設立：1973年9月18日

資本金：1000万円（2023年5月現在）

従業員数：8人（2023年5月現在）



画像提供：株式会社ビックウエスト

—まず、御社の海外意匠権の取得方針（戦略）について概要を教えてください。また、当該方針（戦略）と照らし合わせて、ハーグ制度について特にメリットを感じるころや、利用した感想をお聞かせください。

ビックウエスト：当社はロボットアニメーションと音楽を融合させた「マクロス」シリーズを世に送り出して、2022年で40周年を迎えました。同シリーズは魅力的な登場キャラクターと緻密に描かれたメカアクションの描写で定評を得ており、世界各地のファンの皆さまから愛されています。

「マクロス」シリーズには、劇場版、テレビ放映版、OVA版（ビデオ専用作品）など、数々の異なるバージョンがあり、登場するキャラクターもそれぞれ細部が異なる大切なデザインです。しかし、それらデザインについて日本で意匠権取得を考えると、意匠が表現される対象物が、原則的に物品である点においてハードルが高く、当社の作品のようなキャラクター等を保護するのは困難でした。

ある時、知的財産に関し相談をしている特許法律事務所から、意匠の保護範囲は各国の国内法により異なること、また欧州では2次元のポスターや、3次元のキャラクターデザインであっても保護を拒絶されないことを聞きました。そこで知的財産の専門家である弁理士のアドバイスの下、商標、意匠を含めトータルで当社アニメーションに関わる権利保護の在り方を検討した結果、意匠についてはハーグ制度を利用し、欧州を指定して出願することにしたのです。

ハーグ制度においては、多くの意匠を1つの出願に入れることができるため、2022年の当社出願では、1つの劇場版作品に関連する上映ポスター、キャラクターデザイン等80点の意匠を一括で、1つのハーグ出願にまとめまし



「マクロスΔ」完全新作
 2021年公開

国際登録番号DM/218,911 意匠番号 1



国際登録番号DM/218,911 意匠番号 5

た。作品ごとに管理しやすく、出願、登録にかかった意匠当たりのコストも安価に済んでいます。

——次に、ハーグ制度をご利用になった意匠を取り上げていただき、差し支えない範囲でご利用内容をお聞かせください。また、どのような目的で、実際どのような国を指定されたか、ご利用しての感想などと併せてご教示ください。
 ビックウエスト：国際登録番号DM/218,911 意匠番号 1 および 5

- ・ロカルノクラス：32-00
- ・指定国：EM
- ・Indication of products：意匠番号 1 =Graphic design [two-dimensional]、意匠番号 5 =3D character for animations

意匠 1 は2021年に公開した劇場版『マクロスΔ^{デルタ}絶対LIVE!!!!!!』のポスターデザイン、意匠 5 は同作で主人公が搭乗する機体VF-31AXのメカデザインで、指定国は欧

州です。また、意匠 1 のポスターデザインには公開年を盛り込んだので、ハーグ国際登録の国際公表により、作品がいつ、どのような形態で公開されたかの証明にもなります。当社の意匠権の存在を公に知っていただくとともに、他社との係争の可能性に対する防御策の役割も果たします。

——最後に、今後の展望、ハーグ制度への期待、制度未利用者へのアドバイス等をお聞かせください。

ビックウエスト：当社はマクロス作品の著作権とデザインの著作権を巡って、長年、国内外の会社との間で係争がありました。2021年に和解に至り、現在は世界に向けて映像や物品の販売を展開できるようになりました。

日本のアニメーションは、これからも世界をリードする位置に立ち続けると信じています。アニメーション業界は、より知的財産に関心を持ち、保護すべき権利は保護することを意識すべきです。そうすることが不要な係争をあらかじめ防ぐことに役立ち、ひいては日本のアニメーション業界の発展にも寄与すると思います。